

IX 附属教育研究機関

茨城大学教育学部附属学校の設置目的

(平成 20 年 10 月 15 日教授会で審議・決定)

- (1) 本学の教員、学部学生及び大学院生による幼児教育、普通初等中等教育及び知的障害教育の理論的、実際的研究に協力する。
- (2) 学部の方針に基づき、本学学部学生の教育実習や授業研究等、教員養成に必要な実地教育を行うとともに、学部及び大学院における教職に関する教育に寄与する。
- (3) 茨城県内外の教育機関に対して広く研究成果を還元するとともに、県及び県内自治体との人事交流協定に基づいて教員の研修を行い地域の教育力向上に寄与する。
- (4) 附属学校は、学校教育法の定めるところにより、上記の目的に沿った保育あるいは教育を行う。

茨城大学教育学部附属学校アドミッションポリシー

(平成 20 年 10 月 15 日教育学部教授会で審議・決定)

茨城大学の附属学校には、教育学部の教育研究に協力しその成果を公開することによって、広く教育力の向上に寄与するとともに、教員養成のために教育実習等を行う使命があります。そのため、附属学校の幼児・児童・生徒に対しては、それらを達成できるような環境で保育あるいは教育が行われます。

【幼稚園】

入園にあたっては、自分の気持ちを素直に表現しながら、周囲に興味・関心をもって遊びを楽しむことができる幼児。

在園中は、自分を取り巻くさまざまな物や事柄に心を動かし、親しみと意欲をもってかかわるとともに、集団生活に積極的に参加しながら、自ら判断し行動しようとする幼児。

修了に際しては、豊かな感性と表現力をもつとともに、共通の目的をなしとげるために力を発揮し、自信をもちつつ他者を思いやることのできる幼児。

【小学校】

入学にあたっては、幼児教育を通じて培われた、努力・礼儀・思いやり・継続・感謝の気持ちを素地としてもち、新しい知識を積極的に学んで行こうとする児童。

在学中は、自分とともに他者を大切にすることをもち、自分の夢や希望の実現に向けて、自分の持ち味を発揮しながら主体的に学習し、知恵を培って行く児童。

卒業に際しては、豊かな心と基礎的な学力、健やかな身体を併せもち、良好な人間関係を築きながら生きて行こうとする児童。

【中学校】

入学にあたっては、基礎的な学力を身に付け、自立的で集団や社会の規律を守り、誰とも仲良くできる生徒。豊かな教養と強い精神力、体力を身に付けようとする生徒。

在学中は、自分とともに他者を大切にすることをもち、探求心やチャレンジ精神をもって自ら

課題を設け、その解決に向けて粘り強く学び続ける生徒。

卒業に際しては、確かな学力と豊かな教養を身に付け、よりよい社会作りに積極的に参画・貢献しようとする意欲と力を兼ね備えた、心身ともに健康でたくましい生徒。

【特別支援学校】

入学にあたっては、身辺自立を目指し、必要なことを自分でやろうとする気持ちや、周りへの興味・関心をもとうとする児童。

在学中は、健康で明るく、素直な心で生活し、集団の中で友だちと協力する楽しさや、ともに学ぶ喜びを味わうことのできる児童生徒。

卒業に際しては、心身の健康を保つとともに、他者との積極的なかかわりや学ぶ意欲をもち、何事も忍耐強くやり通して自立的に社会参加をして行ける生徒。

1 附属幼稚園

1-1 沿革と理念

1-1-1 沿革

昭和 42 年 6 月	茨城大学附属幼稚園(水戸市三の丸)として開園(2 年保育 1 学級)
昭和 43 年 4 月	2 学級に増設。
昭和 48 年 4 月	3 年保育実施許可、3 学級に増設。
昭和 49 年 4 月	4 学級に増設
昭和 50 年 4 月	3 年保育 3 学級、2 年保育 2 学級の 5 学級となる。
平成 16 年 4 月	大学法人化により国立大学法人茨城大学附属幼稚園と改称。

1-1-2 理念

(1) 本園の任務

本園は、教員養成を目的とする茨城大学教育学部の附属幼稚園として、大学の研究と学生の教育実地研究の場として、昭和42年6月に創設された。したがって大学と共同又は自主的に幼児の教育研究を行い、それを実証し、その結果をもって地域の幼児教育の向上に寄与する使命をもつものである。

(2) 本園の教育目標

豊かな人間理解を根底とする社会性の芽生えを重視し、基本的な生活習慣の指導を図るとともに、自主性・創造性を養い、明るく健全な心身の発達を助長し望ましい人格の育成を目標とするものである。

(3) 本園の幼児像

自分の気持ちを素直に表現する子ども

自分の思いを実現して行く子ども

いろいろなことに興味や関心をもち挑んでいく子ども

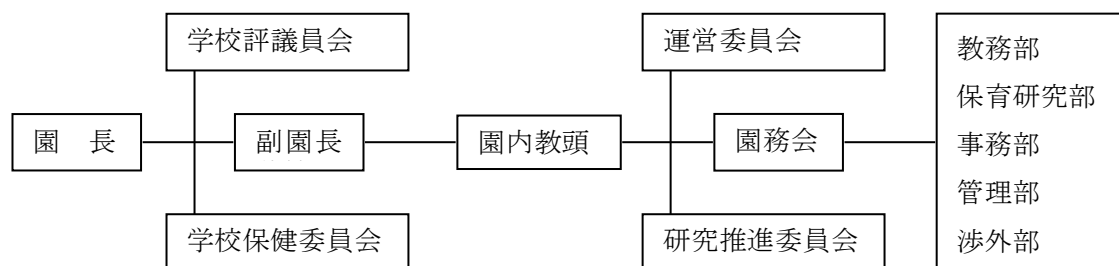
相手の気持ちがわかる子ども

みんなの中の自分を意識し、調和していこうとする子ども

1-1-3 年度の重点施策

- (1) 豊かな育ちを支える保育の充実を図る。
- (2) 信頼される安心・安全な幼稚園経営に努める。
- (3) 子育て支援の充実を図り、保護者との連携を深める。
- (4) 大学や附属学校との連携を密にする。
- (5) 地域及び他教育機関へ貢献する。

1-2 教育研究組織



1-3 教育研究のための人的体制

1-3-1 教職員配置状況

(1) 教職員内訳

園長 1 名、副園長 1 名

教員

園内教頭 1 名、教諭 4 名、養護教諭 1 名、講師 3 名

事務員

係長 1 名、事務員 1 名、PTA 事務員 1 名、教育振興会事務員 1 名

1-3-2 年齢構成と勤続年数

職名	性別		年齢構成							勤続年数					
	男	女	計	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-60	3年未満	3-5年	6-9年	10-14年	15年以上
園長	1		1							1		1			
副園長		1	1						1		1				
教諭		5	5	1		1	1	1	1		4	1			
養護		1	1	1							1				
計		7	8	2		1	1	1	2	1	6	2			

平均年齢 39.2 歳、平均勤務年数 2.16 年

1-4 園児の受入れ

1-4-1 入園者選考

2 年保育 選考方法 1 次 本人観察

募集幼児数	入園志願者数			受験者数			1 次合格者			合格者		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
20	25	13	38	25	13	38	14	8	22	12	8	20

3 年保育 選考方法 1 次 本人観察、2 次 抽選

募集幼児数	入園志願者数			受験者数			1 次合格者			合格者		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
30	23	20	43	23	20	43	18	16	34	15	15	30

(3) 在籍園児数

	3 歳児	4 歳児		5 歳児		計
	りす	うさぎ	こあら	ぺんぎん	きりん	
定員	32	32	32	32	32	160
男	16	16	15	16	15	78
女	16	14	15	12	13	70
計	32	30	30	28	28	148

1-5 卒園後の進路

- ・附属小学校への連絡進学 50 名
- ・他の小学校進学 5 名
- ・計 55 名

1-6 学校生活支援

1-6-1 園児

- ・事例検討会により、特に配慮を必要とする園児について援助方法の検討確認(学部と連携)

1-6-2 保護者

- ・教育相談、健康相談の他、アゼンブリー(子育て座談会)を 30 回開催
- ・連絡ノートの活用
- ・保育自由参観日の設定(年 6 回)
- ・子育て講座 4 回

1-7 研究活動と研究体制の整備

1-7-1 学校における研究活動

- ・研究会 (年 1 回) 保育公開, 研究発表, 講演
- ・園内研究会 (年 3 回)
- ・園内研究日 (年 5 回)

1-7-2 研究成果

『子どもの豊かな育ちを支える -日々の保育記録を通して-』研究紀要 27

1-8 との協力

1-8-1 教育実習生受入

- ・幼児教育実地研究 I 3 年次生 5 名
- ・幼児教育実地研究 II 4 年次生 9 名

1-8-2 学部授業の担当

- ・「保育内容研究(健康)」
- ・「保育内容研究(人間関係)」
- ・「保育内容研究(環境)」
- ・「保育内容研究(言葉)」
- ・「保育内容研究(表現)」
- ・「養護実践研究」

1-9 点検評価及び改善のためのシステム

1-9-1 教育改善への組織的な取り組み

- ・保育カリキュラムの見直し、保育内容の検討

1-9-2 外部評価

- ・学校評議員会 (年 2 回)
- ・保護者へのアンケート調査

1-10 その他

1-10-1 面積等

- ・園舎面積 887.37 m²
- ・保育室 5、プレイルーム 1、教育実習生控室 1、会議室 1、厨房室 1、職員室 1 他

1-10-2 本年度の改善

- ・鉄棒増設、バナナジャングル設置、年少用砂場作成、ソーラー外時計、保育室ダウンライ

ト増設

1-11 地域貢献

1-11-1 教育職員の社会活動

・各団体からの依頼への協力(研修会の講師等)

1-11-2 園児の社会活動

・未就園児への園開放(コミュニティー広場)年間 4 回

1-11-3 研修協力

- ・現職教員研修 (希望する幼、小、保育士)
- ・各学校校種 (小、中、高) の体験学習受入
- ・大学の授業協力 (保育公開)

1-11-4 公開講座

- ・コミュニティー広場 (子育て支援活動) 年間 4 回
- ・子育て講座 年間 3 回

2 附属小学校

2-1 沿革と理念

2-1-1 沿革

- 明治 10 年 10 月 26 日 水戸市竜岡町に開校する。(茨城県師範学校附属小学校)
- 明治 21 年 5 月 9 日 水戸市二の丸 1 番地に移転する。
- 明治 38 年 4 月 1 日 水戸市桜町に開校する。(女子師範学校)
- 昭和 16 年 4 月 1 日 茨城県師範学校附属国民学校と改称する。
- 昭和 18 年 3 月 1 日 茨城師範学校男子部附属国民学校、茨城師範学校女子部附属国民学校となる。
- 昭和 22 年 4 月 1 日 茨城師範学校男子部、女子部に中学校を設置し、附属小中学校となる。
- 昭和 24 年 5 月 31 日 茨城大学が設置される。
- 昭和 24 年 9 月 3 日 茨城大学茨城師範学校附属水城小中学校、同愛宕小中学校と改称する。
- 昭和 26 年 4 月 1 日 茨城大学教育学部附属水城小中学校、同愛宕小中学校と改称する。
- 昭和 33 年 4 月 1 日 茨城大学教育学部附属水城小中学校、同愛宕小中学校を統合し、茨城大学教育学部附属小学校として現在地に発足する。
- 昭和 39 年 9 月 5 日 特殊学級 2 学級を設置
- 昭和 43 年 3 月 8 日 校歌、校旗制定。

昭和 52 年 4 月 1 日 茨城大学教育学部附属養護学校の開設にともない、特殊学級が移行される。

平成 16 年 4 月 1 日 国立大学法人茨城大学教育学部附属小学校と改称する。

平成 19 年 10 月 13 日 附属小学校統合 50 周年記念行事実施。

2-1-2 理念

(1) 教育目標

「児童のもつそれぞれの個性や能力を実現させながら、自立の精神を養う」ことをめざして、本校の教育目標を次のように設定する。

- 1) 価値観や生活様式の変貌する社会状況の中で、常に正しい判断力をもった思慮深い行動ができ、心豊かで健康な子どもを育成する。
- 2) 進展する社会に対応し、新しい文化の創造に必要な基礎学力・体力を身につけた子どもを育成する。

(2) 望ましい子ども像

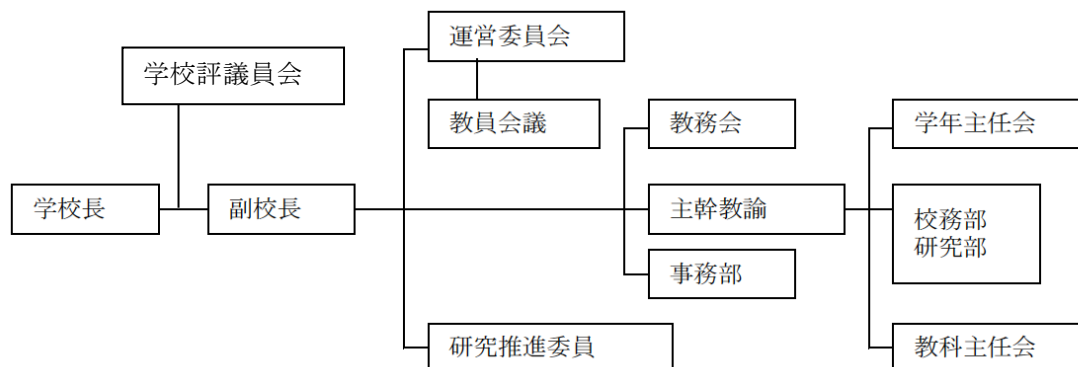
「個」の確立と「はらから」の精神を両立した教育理念に基づき、本校の望ましい子ども像を次の 5 点と設定し、調和的な育成を図る。

- 1) 本気で学びあえる子ども (努力)
- 2) 礼儀正しくふるまえる子ども (礼節)
- 3) 仲よく励まし合える子ども (思いやり)
- 4) 進んで体を鍛えていく子ども (継続)
- 5) 学校や郷土を愛せる子ども (感謝)

2-1-3 重点施策

- (1) 基本的な生活習慣と基礎学力・体力を身につけさせる。
- (2) 学年・学級経営の研究実践に努める。
- (3) 教育研究の充実をめざす。
- (4) 家庭・地域との連携を密にする。
- (5) 四附属及び各教育機関の連携を深め、教育活動を高める。
- (6) 施設・設備の充実と活用を図る。

2-2 教育研究組織



2-3 教育研究のための人的体制

2-3-1 教職員配置状況

(1) 教職員内訳

学校長 1 名、副校長 1 名

教員

主幹教諭(校内教頭) 1 名、教諭 23 名

養護教諭 1 名、栄養教諭 1 名、講師 3 名、ALT 1 名

職員

係長 1 名、事務員 1 名、調理員 5 名、用務員 2 名、PTA 事務員 1 名

(2) 免許教科別構成

職名	中学校											小学校	
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語	計		
担当免許	副校長												1
	教諭等												24
	計												25
その他免許	校長												
	副校長					1						1	
	教諭等	3	3	3	4	4	2	3		2		24	
	計	3	3	3	4	5	2	3		3		25	

2-3-2 年齢構成と勤続年数

職名	性別			年齢構成						勤続年数					
	男	女	計	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-以上	3年未満	3-5年	6-9年	10-14年	15年以上
校長	1		1						1		1				
副校長		1	1						1		1				
教諭等	14	11	25	4	4	11	4				15	4	6		
養護		1	1		1							1			
計	15	13	28	4	5	11	4		2		17	5	6		

平均年齢 男 38.3 歳 女 42.3 歳 計 40.2 歳

2-4 児童の受入れ

(1) 受験者数

内訳	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
一般男子	105	28	28	23
一般女子		31	31	27
幼稚園男子		29	28	28
幼稚園女子		24	24	24
合計	105	112	111	102

補欠合格者 ... なし

(2) 在籍者数

学年	組数	男	女	計
1年	3	47	51	98
2年	3	59	57	116
3年	3	57	52	109
3・4年複式	1	8	8	16
4年	3	55	54	109
5年	3	55	59	114
6年	3	60	56	116
計	19	341	337	678

2-5 卒業後の進路

- ・附属中学校 113 名 (97.4%)
- ・公立中学校 0 名 (0%)
- ・私立中学校 3 名 (2.6%)
- ・合計 116 名 (100 %)

2-6 学部との協力

2-6-1 教育実習生受入

- ・初等教育実践研究 I I 期 9 月 12 日～9 月 29 日 3 年次生 74 名
II 期 10 月 13 日～10 月 28 日 3 年次生 72 名

2-6-2 学部授業の担当

- ・「教育実践研究」
- ・「教育実践研究入門」
- ・「養護実地研究入門」
- ・「養護実地研究」
- ・「初等教育法」...生活科
- ・「初等教育法特講」...算数数学、社会、音楽、図工、家庭

2-7 施設その他

2-7-1 面積等

	m ²		室数	m ²
敷地	50,599	普通教室	19	1,368
運動場	14,351	特別教室	11	1,220
体育館	882	保健室	1	52
プール	461	用務員室		
		その他		3,852
		計		6,492

2-8 地域貢献

2-8-1 公開講座等

名 称	開催日	参加者数
関東甲信越地区小学校社会科研究発表会 茨城大会に係る校内研究会講師指導 水戸市立浜田小、常磐小、緑岡小	平成 23 年度内 12 回	のべ約 400 名
小学校理科教育推進事業 「いばらきサイエンスキッズ育成プラン」 八千代町立川西小、常総市立石下小、守谷市立黒内小、 神栖市立横瀬小	平成 23 年度内 4 回	のべ約 180 名
県東地区音楽教育研究協議会講師 神栖市立須田小	平成 23 年 11 月 2 日	約 60 名
高萩市教育研究会生活科学習指導法研修会講師 高萩市立高萩小	平成 23 年 11 月 2 日	約 40 名
茨城県教育研究会算数・数学指導方法研究会 発表講師	平成 24 年 1 月 20 日	50 名
公開授業研究会 「自分づくり」を支える教育活動の創造 - 「かかわり合い」をつなげていく -	平成 24 年 2 月 3 日	約 260 名

3 附属中学校

3-1 沿革と理念

3-1-1 沿革

- 明治 10 年 10 月 26 日 水戸市竜岡町に開校する。(男子師範学校)
- 明治 21 年 5 月 9 日 水戸市二の丸 1 番地に移転する。
- 明治 38 年 4 月 1 日 水戸市桜町に開校する。(女子師範学校)
- 昭和 18 年 3 月 1 日 茨城師範学校男子部附属国民学校、茨城師範学校女子部附属国民学校となる
- 昭和 22 年 4 月 1 日 茨城師範学校男子部、女子部に中学校を設置し、附属小中学校となる
- 昭和 24 年 5 月 31 日 茨城大学が設置される。
- 昭和 24 年 9 月 3 日 茨城大学茨城師範学校附属水城小中学校、同愛宕小中学校と改称する。
- 昭和 26 年 4 月 1 日 茨城大学教育学部附属水城小中学校、同愛宕小中学校と改称する。
- 昭和 33 年 4 月 1 日 茨城大学教育学部附属水城小中学校、同愛宕小中学校を統合し、茨城大学教育学部附属中学校として現在地に発足する。
- 昭和 34 年 4 月 1 日 1 学級が増設され 12 学級編成となる。
- 昭和 41 年 4 月 1 日 特殊学級 1 学級を開設し 13 学級となる。

- 昭和 42 年 4 月 1 日 特殊学級 1 学級を増設し 14 学級となる。
- 昭和 43 年 3 月 15 日 校歌を制定する。
- 昭和 43 年 4 月 1 日 特殊学級 1 学級増設、15 学級となる。
- 昭和 52 年 4 月 1 日 茨城大学教育学部附属養護学校の開設にともない、特殊学級が移行される。
- 平成 16 年 4 月 1 日 国立大学法人化にともない、国立大学法人茨城大学教育学部附属中学校と改称する。
- 平成 19 年 4 月 1 日 統合 50 周年式典実施ならびに記念誌発行
- 平成 23 年 3 月 11 日 東日本大震災による校舎被害・校舎改修工事

3-1-2 理念

(1) めざす学校像

優れた教員の養成を行う学校

内外に開かれた学校

外部及び附属校園と連携ができる学校

教員の資質・能力の向上がはかれる学校

教育ニーズに対応した学習環境が整った学校

快適な職場環境づくりがなされている学校

(2) めざす生徒像

より高い価値をめざし、たくましく実践し、ともに向上する生徒

(3) めざす教師像 教職に対する高い使命感をもち、信頼される力量ある教師

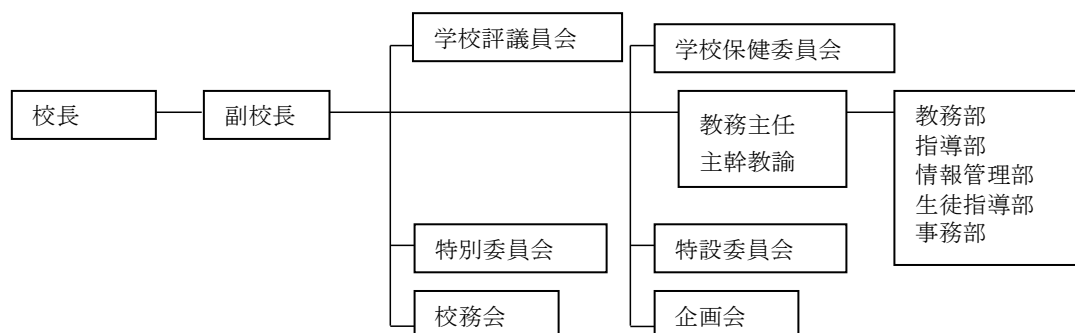
子どもを理解する力を備えた教師

新たな課題に取り組める力をもった教師

高い専門性と教育技術を備えた教師

社会性のある対人関係能力の優れた教師

3-2 教育研究運営組織



3-3 教育研究のための人的体制

3-3-1 教職員配置状況

(1) 教職員内訳

校長 1 名、副校長 1 名

教員

教諭 20 名、養護教諭 1 名、

英語指導助手 1 名、非常勤講師 4 名(社会、保健体育 2、養護)

職員

係長 1 名、事務補佐員 2 名、臨時用務員 1 名、PTA 事務員 1 名

(2) 免許教科別構成

職名	中学校											小学校
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語	計	
担当免許	校長					1					1	
	副校長				1						1	
	教諭	3	3	3	3	1	1	1	1	1	3	20
	計	3	3	3	4	1	2	1	1	1	3	22
その他免許	副校長											1
	教諭等	1		1						1	3	19
	計	1		1						1	3	19

3-3-2 年齢構成と勤続年数

職名	性別			年齢構成							勤続年数				
	男	女	計	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-60	3年未満	3-5年	6-9年	10-14年	15年以上
校長	1		1							1	1				
副校長	1		1							1	1				
教諭	15	5	20	1	2	4	6	5	2		5	10	2	2	1
養護		1	1					1				1			
計	17	6	23	1	3	4	6	6	2	2	7	11	2	5	1

平均年齢 男 41.8 女 43.1 歳 計 42.5 歳

3-4 教育内容と方法

年間授業時間

	必修科目									道徳	特別活動	選択教科	間 総合的な学習の時間	年間授業時間数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語					
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	0	50	1015
第2学年	140	105	105	105	35	35	105	70	140	35	35	*15	70	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	*10	70	1015

* 選択教科の時は数は各教科の実施時数に含まれています。

1 授業時間=50 分

3-5 生徒の受入

(1) 受験人数

	願書受付人数			受験者数			合格者数		
	受験者数	内訳		受験者数	内訳		合格者数	内訳	
		男	女		男	女		男	女
附属小から	113	57	56	113	57	56	113	57	56
公立小から	155	77	78	152	75	77	47	23	24
計	268	134	134	265	132	133	160	80	80

(2) 入学者内訳

	男	女	計
附属幼稚園	29	28	57
附属小学校	29	27	56
公立小学校	23	24	47

(3) 学級数及び在籍生徒数 (H23.5)

学年	組数	男	女	計
1年	4	73	84	157
2年	4	80	77	157
3年	4	81	79	160
計	12	234	240	474

3-6 卒業後の進路

- ・公立高校 84人(53%)
- ・私立高校 73人(46%)
- ・他(留学等) 2人(1%)
- ・合計 158人(100%)

3-7 学部との協力

3-7-1 教育実習生の受入

・前期 6月 1日～6月 16日	教育学部生 44名 委託生 3名
・後期 9月 2日～9月 21日	教育学部生 42名、委託生 1名
計	教育学部生 86名、委託生 4名

3-8 施設その他

	m ²		室数	m ²
敷地	34,787	普通教室	12	81
運動場	18,300	特別教室	17	1,535
体育館	1,415	保健室	1	49
プール	975	用務員室	1	34
		その他		14,053
		計		16,487

3-9 地域貢献

3-9-1 公開講座等

- ・第 1 回公開授業研究会 「学びを織りなす生徒の育成をめざして -自ら学ぶ意欲を高める指導と評価-」 平成 23 年 10 月 18 日
- ・第 2 回公開授業研究会 平成 23 年 11 月 8 日

4 附属特別支援学校

4-1 沿革と理念

4-1-1 沿革

- 昭和 52 年 4 月 1 日 附属小学校特殊学級（3 学級）及び附属中学校特殊学級（3 学級）を母体として茨城大学教育学部附属養護学校を創設
- 昭和 53 年 4 月 1 日 高等部を新設
- 昭和 54 年 2 月 新校舎落成
- 昭和 54 年 4 月 1 日 高等部学年進行にともない 1 学級増設
- 昭和 54 年 5 月 15 日 新校舎竣工・開校記念式典挙行
- 昭和 55 年 4 月 1 日 高等部学年進行にともない 1 学級増設
- 平成 19 年 4 月 1 日 茨城大学教育学部附属特別支援学校に校名変更

4-1-2 理念

(1) 本校の任務

- ・各部門の一貫した調和と統一のとれた教育課程の中で、児童生徒一人一人の能力と適性

に応じた効果的で充実した教育がなされるようにする。

- ・児童生徒の可能性を引き出すための教育内容や方法について、大学及び附属学校園との連携の下、理念と実践についての研究・実証を行う。
- ・教育実践及び研究をとおして地域の特別支援教育の推進に協力する。
- ・本学学生の教育実習を行う。

(2) 教育目標

一人一人の能力に応じた教育を行い、その可能性を開発・伸長し、豊かな心と健康な身体を育て、社会生活に適応できる明るく、強く、たくましく生きぬく力をもった人間を育成する。

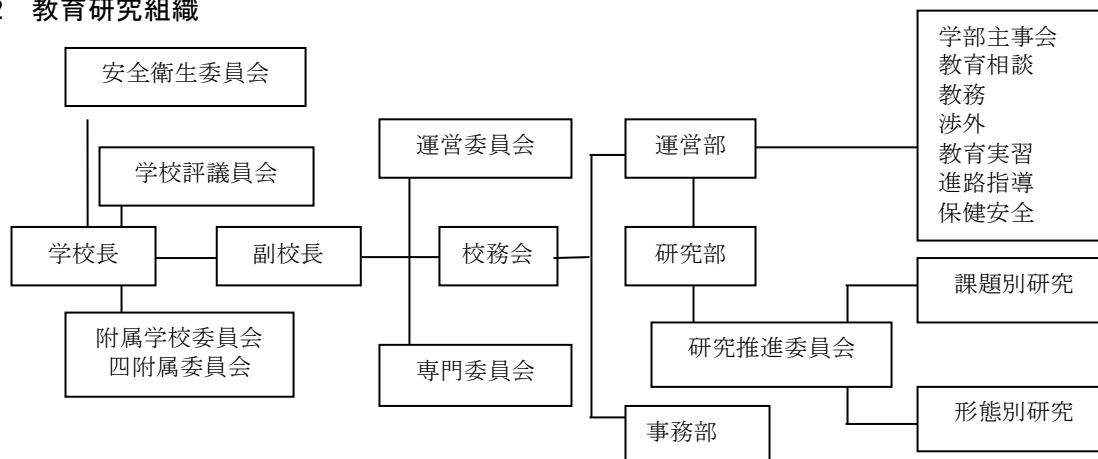
(3) 目指す子ども像

- ・からだのじょうぶな明るい子
- ・自分のことは自分でする子
- ・すなおな心で仲よくする子
- ・きまりを守りれいぎ正しい子
- ・しんぼう強くやりとおす子

4-1-3 本年度の重点目標

- ・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容及び方法の充実を図る。
- ・大学との連携の下、地域や大学に必要とされる研究活動や公開講座等を実施する。
- ・教育実践研究をとおして、専門性を高め、教員の資質の向上を図る。
- ・保護者が、児童生徒の成長を実感できる教育活動を推進する。
- ・保護者や地域との連携を図り、安全・安心な開かれた学校づくりを推進する。
- ・教師を目指す学生に対し、充実した教育実習・介護等体験を実施する。

4-2 教育研究組織



4-3 教育研究のための人的体制

4-3-1 教職員配置状況

(1) 教職員内訳

校長 1 名、副校長 1 名

教員

校内教頭 1 名、教諭 25 名、講師 1 名、養護教諭 1 名

職員

係長 1 名、運転手 1 名、栄養士 1 名、技能補佐員 2 名、臨時用務員 2 名

(2) 免許教科別構成

職名	特別支援学校												小学校	
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語	特支	計		
担当免許	校長													
	副校長											1	1	
	教諭											18	18	
	講師											1	1	
	計											20	20	
その他免許	校長							1					1	
	副校長			1									1	1
	教諭	3	9			4		1		2	5		24	22
	講師	1											1	1
	計	4	9	1		4		2		2	5		27	24

4-3-2 年齢構成

職名	性別			年齢構成								勤続年数					
	男	女	計	25未満	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-60	60以上	3年未満	3-5年	6-9年	10-14年	15年以上
校長	1		1								1		1				
副校長		1	1							1			1				
教諭	9	17	26			5	6	9	5	1			8	13	4	1	
講師		1	1						1				1				
養護		1	1				1						1				
計	10	20	30			5	7	9	6	2	1		12	13	4	1	0

平均年齢 男 41.2 歳 女 40.0 歳 計 40.5 歳

4-4 教育内容と方法

1 週あたり授業時間

小学部 1 授業時間=40 分

指導の形態	領域・教科を合わせた指導			教科別の指導			領域別の指導		週授業時間数
	形態名	日常生活の指導	生活単元学習	課題学習	音楽	体育	図画工作	自立活動	
1～3 学年	16.25	6.0	5.0	2.0	2.0		0.5		31.75
4～6 学年	16.25	6.0	5.0	2.0	3.0	2.0	0.5	1.0	35.75

中学部 1 授業時間=40 分

指導の形態	領域・教科を合わせた指導				総合的な学習の時間	教科別の指導			領域別の指導		週授業時間数
	形態名	日常生活の指導	生活単元学習	作業学習		課題学習	音楽	美術	保健体育	自立活動	
1～3 学年	16.5	4.5	1.5	4.0	2.0	2.0	1.0	3.5	0.5	1.0	36.5

高等部 1 授業時間=45 分

指導の形態	領域・教科を合わせた指導			総合的な学習の時間	教科別の指導					領域別の指導		週授業時間数
	形態名	日常生活の指導	作業学習		課題学習	音楽	美術	保健体育	家庭	選択(音・美・書)	自立活動	
1～3 学年	2.5	7.5	5.0	1.0	1.0	2.0	3.0	3.5	1.0	0.5	5.0	32.0

4-5 児童生徒の受入れ

在籍生徒数

学年	小学部							中学部				高等部				合計
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	1	2	3	計	
男	3	1	2	2	3	2	13	4	3	4	11	6	5	4	15	39
女	0	1	1	1	1	2	6	2	2	2	6	1	2	3	6	18
計	3	2	3	3	4	4	19	6	5	6	17	7	7	7	21	57

4-6 卒業後の進路

(1) 中学部

- ・進学 特別支援学校高等部 6名
- ・施設 0名

(2) 高等部

- ・就職 1名
- ・施設 6名
- ・進学 0名

4-7 教育実習生等の受入れ

(1) 教育実習

- ・特支基本 5月16日～6月3日 教育学部教員養成課程
特別支援教育コース 4年次生 19名
- ・特別専攻科 9月5日～9月16日 特別専攻科生 19名
- ・特支副専 10月17日～10月28日 教育学部4年次生 12名

(2) 体験学習（実習事前・事後） 毎週木曜日 約50名×4回

(3) 介護等体験 前期4回 計40名 後期4回 計40名

4-8 施設その他

	m ²		室数	m ²
敷地	19,594	普通教室	10	290
運動場	6,600	特別教室	10	542
体育館	459	保健室	1	33
プール	858	用務員室	1	10
実習地	1,200	その他		2,742
		計	28	3,617

4-9 地域貢献

	名 称	開催日	参加者数
1	公開授業研究会「特別支援学校の教科指導(国語)における授業づくり」	7月22日	284名
2	公開講座：検査法研修講座	8月3・26日	43名
3	公開講座：教材・教具開発講座	8月11日	50名
4	公開講座：自立活動講座	8月29・30日	30名
5	公開研究会「特別支援教育(知的障害)におけるキャリア教育の在り方」	12月8日	87名
6	水戸教育事務所管内特別支援教育理解促進研修会 (附属特別支援学校・水戸教育事務所 共催)	1月27日	33名